

第7回山陽小野田市都市計画審議会議事録(要約版)

- 開催日時 平成23年9月26日(月)午後3時～3時45分
- 開催場所 山陽小野田市役所 大会議室
- 出席者 1号委員 中西 弘、西村重基、川空忠男
2号委員 伊藤 武、伊藤 實、衛藤弘光、硯谷篤史、高松秀樹
3号委員 坂元久夫、高無 正、田中文之、長谷川邦夫
- 欠席者 1号委員：塚本桓世、田中剛男、高谷修
- 事務局 白井市長
平田産業建設部長、
都市計画課 佐村課長、高橋技監、和氣課長補佐、井上係長、熊川主任技師
下水道課 谷岡課長、石田主幹、清力補佐、中本主査、泉本係長、
- 傍聴人 1名(一般市民)
- 会議次第 1 開会
2 市長あいさつ
3 議事
議案第1号 山陽都市計画下水道の変更について(諮問)
4 その他
5 閉会

○会議内容

1 開会

2 市長あいさつ

3 議事

議案第1号 山陽都市計画下水道の変更について

事務局より議案第1号について説明。

・質疑応答(要旨)

(委員) 山陽水処理センターの余剰地について、将来人口予測などから検討して下水道用地としては必要ないという方向性を出されたことは評価できるが、山陽地区にはし尿処理場老朽化の問題もあり、し尿処理場をふたつ作るよりし尿を直接下水道処理場で処理しようとか、中間貯留槽を設置するという計画があったが、そういう計画も検討した上での結果なのか？

(事務局) 基本的には、し尿は小野田のし尿処理場に持って行くと聞いている。

(委員) 厚狭川第一中継ポンプ場の廃止について、説明では、中継ポンプの能力が無くてもマンホールポンプの方で対応できると理解したが、それは、昨年7月の水害の前から廃止の計画があったのか、それとも水害で水没しても、まかなえるから見直そうと考えたのか。

(事務局) 平成20年度に計画諸元の見直しを行ったときに、能力的にはマンホールポンプで足りるという結論だったが、施設の整理まで至らなかった。

(委員) 水害の時にポンプは機能したのか

(事務局) 水没はしたが、この汚水用ポンプは動いていた。

- (委員) 污水管は、厚狭川を何カ所くらい渡っているのか。
- (事務局) 2箇所である。
- (委員) かつて、厚狭高校南校舎周辺の污水管が詰まるという話があったが今はどうなのか。
- (事務局) 今はそういう状況はない。
- (委員) 説明では、必要なくなった用地を有効活用するために都市計画の指定を外す、ということだが、売却するのか。
- (事務局) 用地については、都市計画上必要が無くなったから、まずは都市計画の指定を外す手続きをする、ということである。その後売却を検討する。
- (委員) 売却となった場合、国に補助金の返還ということがおこるのか。
- (事務局) 補助金で取得した土地であればそうなる。
- (委員) 他の都市計画施設についても、必要があれば都市計画の指定を外すことは可能なのか？
- (事務局) 都市計画上の理由がつけば、基本的には可能である。
- (委員) この地区における水洗化率はどのくらいか。
- (事務局) 地区別は把握していないが、市全体では88%である。
- (委員) 中継ポンプ場が一つになるということだが、能力を考えて検討したのか。
- (事務局) 汚水量に対するポンプの能力を検討した結果である。
- 採決の結果、全会一致で第1号議案は原案どおり承認された。

6 その他 ～省略～

7 閉会